



IPv4/IPv6 音声クリッピング回避

分散モデルでは、200 OK 応答の直後に RTP パケットが送信された場合、MGC または SIP サーバからの応答遅延により、音声クリッピングが発生することがあります。IPv4/IPv6 音声クリッピング回避機能により、メディア フローのドロップまたはクリッピングを防ぐことができます。

IPv4/IPv6 音声クリッピング回避の機能履歴

リリース	変更内容
リリース 3.5.1	Cisco CRS-1 および Cisco XR 12000 シリーズ ルータに、この機能が追加されました。

内容

このモジュールの構成は次のとおりです。

- 「IPv4/IPv6 音声クリッピング回避の制約事項」 (P.469)
- 「IPv4/IPv6 音声クリッピング回避に関する情報」 (P.469)
- 「その他の関連資料」 (P.470)

IPv4/IPv6 音声クリッピング回避の制約事項

IPv6 音声クリッピング回避のサポートには、次の制約および制限が適用されます。

- メディア フローの指定ラッチング側のローカルアドレスは、他のフローとは共有できません。
- アーリー メディアの非 NAPT フローのラッチングは、RSAM が適用されない非ローカル アドレス フローなので、リモート マスクを使用せずにハッシングする必要があります。

IPv4/IPv6 音声クリッピング回避に関する情報

IPv6 音声クリッピング回避をサポートする場合、Media Packet Forwarder (MPF) は、指定ラッチング側 (最初は未知のリモート アドレス) を使用して、割り当てられたローカル アドレスで到達した最初のパケットに対してラッチングを実行します。その後、MPF は、割り当てられたローカル アドレス上に到達するパケットを、ラッチングしたリモート IP またはポートから送信します。

その他の関連資料

ここでは、SBC 上の IPv4/IPv6 音声クリッピング回避に関する関連資料について説明します。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS XR マスター コマンド リファレンス	『Cisco IOS XR Master Commands List』
Cisco IOS XR SBC インターフェイス コンフィギュレーション コマンド	『Cisco IOS XR Session Border Controller Command Reference』
Cisco IOS XR ソフトウェアを使用するルータを初回に起動し設定するための情報	『Cisco IOS XR Getting Started Guide』
Cisco IOS XR コマンド モード	『Cisco IOS XR Command Mode Reference』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
—	Cisco IOS XR ソフトウェアを使用して MIB の場所を特定してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用して、[Cisco Access Products] メニューからプラットフォームを選択します。 http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
シスコのテクニカル サポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。	http://www.cisco.com/en/US/support/index.html

